

科目名	憲法	担当教員	鎌田 晋
科目コード	310001	授業形態	レポート・科目試験
単位数	2 単位	必修・選択	必修
授業概要 (テキストによる通信教育)			
1 憲法と立憲主義 2 日本国憲法の基本原則、国民主権、平和主義 3 基本的人権の保障と公共の福祉 4 包括的基本権と法の下での平等 5 精神的自由権 (内心の自由) 6 精神的自由権 (表現の自由) 7 経済的自由権 8 人身の自由 9 国務請求権、参政権 10 社会権 11 国会 12 内閣 13 裁判所 14 財政、地方自治 15 憲法の保障 (違憲審査制)			
授業修了時の達成目標			
1 立憲主義の意義及び日本国憲法の基本原理を理解する。 2 現実に生じる憲法問題について、自分で考えられるようになる。			
教科書・教材	評価基準	評価率	その他
いちばんやさしい憲法入門 第6版 (有斐閣アルマ)	試験	100.0%	
	レポート	100.0%	

科目名	情報リテラシーと処理技術 I	担当教員	八幡 幸司
科目コード	310002	授業形態	レポート・科目試験
単位数	2 単位	必修・選択	必修

授業概要 (テキストによる通信教育)

コンピュータやネットワークなど情報処理に関する知識を身につけ、情報・通信、メディア技術に関わる情報学を活用し、自分で問題解決能力を身につけることを目標とする。

「情報リテラシーと処理技術 I」では、コンピュータの基礎、情報の形態と収集の方法、インターネットの仕組み、情報の伝達、レポートの作成と編集について学ぶ。

授業修了時の達成目標

1. コンピュータの基本的な仕組みが説明できる。
2. 様々な情報の表現方法、情報の収集方法が説明できる。
3. インターネットの基本的な仕組みが説明できる。
4. 様々な情報の伝達方法の説明ができる。
5. レポート作成の基本的知識を身につけ、実際にレポート作成ができる。

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
よくわかる情報リテラシー 改訂新版 (技術評価社)	試験	100.0%	
	レポート	100.0%	

科目名	情報リテラシーと処理技術Ⅱ	担当教員	八幡 幸司
科目コード	310003	授業形態	レポート・科目試験
単位数	2 単位	必修・選択	選択

授業概要 (テキストによる通信教育)

コンピュータやネットワークなど情報処理に関する知識を身につけ、情報・通信、メディア技術に関わる情報学を活用し、自分で問題解決能力を身につけることを目標とする。

「情報リテラシーと処理技術Ⅱ」では、情報とデータ化・分析・マイニング、モデリングとシミュレーション、プレゼンテーションの方法、セキュリティと法令遵守、ICT 活用の問題解決について学ぶ。

授業修了時の達成目標

1. 情報のデータ化・基本的分析手法に説明ができる。
2. モデリングについて説明ができ、基本的な傾向分析を行うことができる。
3. プレゼンテーションの基本を理解し、プレゼンテーションを行うことができる。
4. 基本的なセキュリティについて説明することができる。
5. ICT 活用の問題解決の手法について説明することができる。

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
よくわかる情報リテラシー 改訂新版 (技術評価社)	試験	100.0%	
	レポート	100.0%	

科目名	英語コミュニケーション I	担当教員	宮里 幸子
科目コード	310004	授業形態	レポート・科目試験
単位数	2 単位	必修・選択	必修

授業概要 (テキストによる通信教育)

〈Pre-unit〉

Unit1:自己紹介

Unit2:場所の案内

Unit3:あいさつ

Unit4:好きなもの(こと)を尋ねる

Unit5:ものがある場所を指す表現

Unit6:遊び

Unit7:食

Unit8:トイレ

Unit9:一日の活動報告

Unit10:行事予定

Unit11:保育計画

Unit12:体調不良

Unit13:保護者へ電話をかける

Unit14:お別れとお礼

*英語で読む日本昔話、英語の唄

授業終了時の達成目標

- 1.保育現場で「日本語がわからない親子」を受け持つことになったと想定し、現場に必要な英語表現を学ぶ。
- 2.音声ファイル(ダウンロード)を活用し、英語の音に馴染む。
- 3.1と2を通し、自ら進んで英語でコミュニケーションを取ろうとする積極性を養う。

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
Happy English for Childcare (KINSEIDO)	試験	100.0%	
	レポート	100.0%	
*しっかり学習したい方には、英和辞書の活用をぜひおすすめします。最近ではネットで手軽に単語が調べられますが、手元に一冊辞書を置くことをおすすめします。この機会に基礎から英語を学び直したい方は、中学生向けの辞書がわかりやすく使いやすいです。 *解答は学校にて閲覧。テキストを解いていること。			

科目名	健康科学	担当教員	与那覇 慶子
科目コード	310005	授業形態	レポート・科目試験
単位数	1 単位	必修・選択	必修

授業概要 (テキストによる通信教育)

健康とは何か、世界保健機関 WHO の憲章で、「健康とはただ疾患や傷害がないだけでなく、肉体的、精神的ならびに社会的に完全に快適な状態であること」と定義されている。健康概念世界保健機関の定義に沿って現代社会における健康と運動について今なぜ健康かの現状と考え方と理解していく。

授業修了時の達成目標

1. 現代生活における健康と運動について理解する。
2. 運動とからだの健康について理解する。
3. 運動と心について理解する。
4. 健康生活と運動について理解する。

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
テキスト健康科学 改定 2 版 (南江堂)	試験	100.0%	
	レポート	100.0%	

科目名	保育のスポーツ	担当教員	手登根 雄次
科目コード	310006	授業形態	スクーリング
単位数	1 単位	必修・選択	必修
コマ数	20 コマ	時間	30 時間

授業概要 (テキストによる通信教育)

【講義】

- ・運動における発達課題とアセスメント（評価）について
- ・現代における運動についての考え方
- ・運動プログラム作成の工夫
- ・障がい児に対する運動の考え方
- ・運動時におけるコミュニケーション方法
- ・運動時などにおけるリスクマネジメントについて

【実技】

- ・準備運動
- ・卓球
- ・ドッジボール
- ・サッカー
- ・創作運動
- ・クールダウン
- ・ストレッチ

授業終了時の達成目標

- ・運動の楽しさを理解し、相手に伝える・教える視点を理解する。
- ・運動を通して、健康・発達に対する意識を高める。
- ・運動を創作していく考え方と視点を理解する。
- ・現代の運動に対する流れを把握し、リスクマネジメントについて理解する。

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
	受講態度	30%	
	課題	20%	
	単位認定試験	20%	

科目名	保育原理	担当教員	山城 めぐみ
科目コード	310007	授業形態	レポート・科目試験
単位数	2 単位	必修・選択	必修
授業概要 (テキストによる通信教育)			
<p>[授業の目的・ねらい] 保育とは何かについて理解を深め、保育の基本的な理論や知識を身につける。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 新保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定子ども園教育・保育要領の趣旨を踏まえ、主に保育の意義や歴史及び保育の目的・目標や内容など理論的な内容と計画や方法・技術など「保育」の本質を学ぶ</p> <p>①保育の意義と目的 子どもの最善の利益と保育について考える</p> <p>②幼稚園・保育園・幼保連携型認定子ども園の機能 幼稚園・保育園・幼保連携型認定子ども園の相違点と共通点について考える</p> <p>③保育の基本・目標と内容 保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定子ども園教育・保育要領について知る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・養護と教育の一体性 ・環境を通して行う保育・教育 ・保護者との連携、保育士の専門性 <p>④保育の思想と歴史</p> <ul style="list-style-type: none"> ・諸外国の保育の思想と歴史について学ぶ ・日本の保育の歴史について学ぶ <p>⑤保育の現状と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・諸外国・日本の保育問題と課題を考える 			
授業修了時の達成目標			
<p>保育の基本的な知識を身につけて保育の意義が理解できるようになること。 また、子どもの最善の利益となるような保育への関心、意欲、態度が育ち配慮した保育ができるようになること。</p>			
教科書・教材	評価基準	評価率	その他
新・基本保育シリーズ① 保育原理 (中央法規出版)	試験	100.0%	
	レポート	100.0%	

科目名	教育原理	担当教員	西本 裕輝
科目コード	310008	授業形態	レポート・科目試験
単位数	2 単位	必修・選択	必修

授業概要 (テキストによる通信教育)

1. 教育の意義
2. 教育の目的
3. 乳幼児期の教育の特性
4. 教育と子ども家庭福祉の関連性
5. 人間形成と家庭・地域社会
6. 諸外国の教育思想
7. 諸外国の教育の歴史
8. 日本の教育思想・歴史
9. 子ども観と教育観
10. 教育制度の基本
11. 教育の法律と行政
12. 諸外国の教育制度
13. 教育実践の基礎
14. さまざまな教育実践
15. 生涯学習社会における教育の現状と課題

授業修了時の達成目標

教育の本質とは何かについて自分のことばで説明でき、自分なりの考えを持つことができる。

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
新・基本保育シリーズ② 教育原理 (中央法規出版)	試験	100.0%	
	レポート	100.0%	

※入学年度によって科目名が異なります。

平成 30 年度入学生は「児童家庭福祉」、平成 31 年度以降入学生は「こども家庭福祉」です。

科目名	こども家庭福祉 / 児童家庭福祉	担当教員	宮田 英治
科目コード	310009	授業形態	レポート・科目試験
単位数	2 単位	必修・選択	必修

授業概要 (テキストによる通信教育)

子ども家庭福祉の理念と概念、歴史的変遷など、子ども家庭福祉全般について学習する。

「全て児童は、児童の権利に関する条約にのっとり、適切に養育されること、愛され、保護されること、その心身の健やかな成長及び発達並びにその自立が図られることその他の福祉を等しく保障される権利を有する」(児童福祉法第 1 条)。2016 年(平成 28 年)に児童福祉法が改正された。「子どもの最善の利益」とは何かを考え、子どもの人権擁護の視点を持つことを養う。

子どもを取り巻く社会の状況は、複雑化多様化している。貧困家庭、ひとり親家庭などの対応について学習し、これらの問題解決についての方途を考える。

授業修了時の達成目標

子どもの人権擁護について理解する。

子ども家庭福祉の制度と実施体制について理解する。

子どもの家庭を取り巻く状況を理解し、保育の専門職として必要な視点を身につける。

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
新・基本保育シリーズ③ 子ども家庭福祉 (中央法規出版)	試験	100.0%	
	レポート	100.0%	

科目名	社会福祉	担当教員	大庭 荒
科目コード	310010	授業形態	レポート・科目試験
単位数	2 単位	必修・選択	必修

授業概要 (テキストによる通信教育)

1. 現代社会における社会福祉の意義とこども家庭支援
 - (1) 社会福祉の概念と理念
 - (2) こどもの最善の利益を優先
2. 社会福祉の法制度の体系と行財政
 - (1) 社会福祉の法制度と法体系
 - (2) 社会福祉行政の役割と財政
3. 社会福祉の専門職
 - (1) 社会福の専門性と資格
 - (2) 児童福祉施設における専門職
4. 社会保障、関連法制度の概要
 - (1) 社会保障制度の概要
 - (2) 子育て世帯の概要と課題
5. 相談援助の概要
 - (1) 相談援助の原則と過程
 - (2) 相談援助の方法と技術
6. 利用者の権利擁護
 - (1) 利用者権利擁護と苦情解決
 - (2) 第三者評価
7. 少子高齢社会における子育て支援と地域共生社会
 - (1) 少子化対策と保育の役割
 - (2) 障害者福祉の現状と共生社会

授業終了時の達成目標

1. 現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷について説明できる。
2. こどもの権利や家庭支援について説明できる。
3. 社会福祉の制度や実施体系について説明できる。
4. 社会福祉における相談援助について説明できる。
5. 社会福祉利用者の保護にかかわる仕組みについて説明できる。
6. 地域共生社会について説明ができる

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
新・基本保育シリーズ④ 社会福祉 (中央法規出版)	試験	100.0%	
	レポート	100.0%	

※平成 31 年度以降入学生対象科目。

科目名	こども家庭支援論	担当教員	砂川 亜紀美
科目コード	310011	授業形態	レポート・科目試験
単位数	2 単位	必修・選択	必修
授業概要 (テキストによる通信教育)			
<p>保育を取り巻く社会情勢が変化し、子育てを巡る地域や家庭の状況には多様な課題が存在する。それらの状況を踏まえ、子どもの育ちや家庭への支援を充実させるために、「こども家庭支援論」では子どもとその家庭の理解を深め、子育て家庭への支援に関する保育士としての基本姿勢や支援の内容、それを実践するための方法、技術等について学ぶ。</p> <p>保育の現場で働く者が「家庭」を理解し、子どもの生活環境や生活状況の多様性を理解しつつ、子どもの最善の利益を尊重した柔軟な支援を行う力を身につけ、実践に役立ててほしい。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの家庭支援の意義と必要性 2. 子ども家庭支援の目的と機能 3. 子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進 4. 子育て家庭の福祉を図るための社会資源 5. 保育の専門性を活かした子ども家庭支援とその意義 6. 子どもの育ちの喜びの共有 7. 保護者および地域が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援 8. 保育士に求められる基本的態度 9. 家庭の状況に応じた支援 10. 地域の資源の活用と自治体・関係機関等との連携・協力 11. 子ども家庭支援の内容と対象 12. 保育所等を利用する子どもの家庭への支援 13. 地域の子育て家庭への支援 14. 要保護児童およびその家庭に対する支援 15. 子育て支援に関する課題と展望 			
授業修了時の達成目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 子育て家庭に対して保育士の行う相談等の支援の意義や保育士等の役割について理解する。 2. 保育士による子ども家庭支援の基本について理解する。 3. 子育て家庭に対する支援の体制について理解する。 4. 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について理解する。 			
教科書・教材	評価基準	評価率	その他
新・基本保育シリーズ⑤ 子ども家庭支援論 (中央法規出版)	試験	100.0%	
	レポート	100.0%	

※平成 30 年度入学生対象科目

科目名	相談援助	担当教員	砂川 亜紀美
科目コード	310011	授業形態	スクーリング
単位数	1 単位	必修・選択	必修
コマ数	10 コマ	時間数	15 時間

授業概要 (テキストによる通信教育)

第 1 回 相談援助の概要

"地域社会には、多様な価値観や特性をもった「人」が生活しており、相談援助の対象もまた「人」であることから、実際の対象をイメージするための導入を行う。相談援助の専門性、必要性、原理・原則について説明する。

第 2 回 他者を理解するために必要な自己理解

対人援助に欠かせない要素としての自己理解について説明し、ワークを通して「自己理解」につなげる。

第 3 回 相談援助の方法と技術

相談援助の対象やプロセス（ケースの発見～アフターケア）、相談を受ける姿勢について説明する。

第 4 回 多様性の理解① 前半

1970 年代イタリアで制定されたバザリア法によって精神科病院から地域へ押し出された精神障害者らの実話を基にした映画から、相談援助に必要なストレングズ視点やエンパワーメントについて考える。

第 5 回 多様性の理解②

1970 年代イタリアで制定されたバザリア法によって精神科病院から地域へ押し出された精神障害者らの実話を基にした映画から、相談援助に必要なストレングズ視点やエンパワーメントについて考える。

第 6 回 相談援助の具体的展開（個人に対する相談絵印所と小集団を活用した相談援助）

個人に対する援助技術（ケースワーク）における基本的態度や自己覚知について、また、小集団を活用した援助技術（グループワーク）の展開過程や諸原則など、諸原則など、実際の事例を用いて具体的に相談援助の場面を想定しながら説明する。

第 7 回 相談援助の具体的展開（関係機関との協働・専門職との連携）

相談援助の場面での連携の必要性、他機関（フォーマル、インフォーマル）との関わりの実際について説明する。

第 8 回 相談援助の具体的展開（社会資源の活用、調整、開発）

地域の中にある様々な資源について理解し、資源の活用方法を検討する。また、ニーズをキャッチし新しい資源の開発に向けた取り組みやその必要性について説明する。

第 9 回 事例分析

事例を通して、これまで学んだ理論や方法について振り返り、実際の支援の状況から気づきや疑問などを確認する。障害のある子どもとその保護者への支援など当事者からの事例提供を受け、生の支援のあり方について検討し、他社との視点の違いについて共有する。

第 10 回 事例分析/まとめ

相談援助の場面で必要な視点・姿勢について、学んだことを実際に活用し、ロールプレイなどを通して擬似的に実践する。

授業修了時の達成目標

○テーマ：ソーシャルワークの視点から相談援助の知識・技術を獲得する。

○到達目標：相談援助に必要な知識・技術を獲得し、対象者へ関わる際の姿勢・視点が身につく。

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
	受講態度	30%	
	課題	20%	
	単位認定試験	50%	

※入学年度によって科目名が異なります。

平成 30 年度入学生は「社会的養護」、平成 31 年度以降入学生は「社会的養護 I」

科目名	社会的養護 / 社会的養護 I	担当教員	砂川 恵正
科目コード	310012	授業形態	レポート・科目試験
単位数	2 単位	必修・選択	必修
授業概要 (テキストによる通信教育)			
<p>1) 社会的養護の基本理念・基本原理の理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・改正 (平成 28 年度) 児童福祉法における社会的養護の基本原則 ・平成 28 年度策定新しい社会的養育ビジョンの理解 <p>2) 社会的養護の歴史的変遷</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特に、戦前、戦後の社会的養護の変遷 ・先進国の社会的養護の在り方と変遷 ・子ども観における変遷 <p>3) 児童の権利擁護と社会的養護の原則</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会的養護における子どもの権利擁護と取り組みについて ・子どもの権利と援助の視点 ・子どもの権利擁護を支える社会的養護の仕組み ・社会的養護における子どもへの権利侵害を防止する取り組み <p>4) 社会的養護の制度と実施体系</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会的養護に係る子ども達の状況の理解 ・児童福祉法の制度と実施体制 (児童相談所の役割りと措置の考え方) ・社会的養護に係る児童福祉施設の役割りと目的 <p>5) 家庭養護と施設養護</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭養護と施設養護の特徴と利点 ・児童養護施設等の運営指針の理解 ・家庭養護の要件と今後の在り方 <p>6) 社会的養護にかかる専門職と実施体制</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会的養護における各種専門職の役割りと援助技術 ・各種専門職の連携の必要性和意味 ・専門職としての倫理観の確立 <p>7) 施設養護の実際</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の施設入所から退所又はアフターケアの実施状況 ・家族再構築に向けた取り組み ・児童の権利擁護のための施設としての役割り <p>8) 被措置児童等の虐待防止と現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ・被措置児童等の虐待の現状と防止の経緯 ・被措置児童等虐待防止の課題 <p>9) 社会的養護における地域福祉への関わりと課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設小規模化と地域への関わり ・社会的養護関係施設の地域との関わり 			
授業修了時の達成目標			
<p>1) 社会的養護 (養育ビジョン) の意義について理解する</p> <p>2) 改正児童福祉法と社会的養護の関連について理解する</p> <p>3) 社会的養護と児童の権利擁護の在り方について理解する</p> <p>4) 社会的養護における制度や権利擁護を踏まえた実施体制等について理解する</p> <p>5) 社会的養護における児童及び家族再構築に向けての支援及び児童の自立支援について理解する</p> <p>6) 保育士として社会的養護における支援者としての役割りと支援の在り方について理解する</p> <p>7) 社会的養護における現状と課題を理解する</p>			
教科書・教材	評価基準	評価率	その他
新・基本保育シリーズ⑥ 社会的養護 I (中央法規出版)	試験	100.0%	
	レポート	100.0%	

※入学年度によって科目名が異なります。

平成 30 年度入学生は「保育の心理学 I」、平成 31 年度以降入学生は「保育の心理学」

科目名	保育の心理学 I / 保育の心理学	担当教員	比嘉 良洋
科目コード	310013	授業形態	レポート・科目試験
単位数	2 単位	必修・選択	必修
授業概要 (テキストによる通信教育)			
<p>「保育の心理学」は「発達心理学」・「教育心理学」の内容をこどもの発達を中心にまとめられ、保育者としてこどもとの適切な関わりを学んでもらうための科目です。</p> <p>発達とはなにか、学ぶとは何かを考えるうえでも重要な科目です。特に人生 100 年時代という言葉も違和感なく、現実のものとして受け入れられてきており、人は生まれてから死に至るまで発達し続けるという「生涯発達」をテーマとした「生涯発達心理学」も生まれています。</p> <p>こうした少子高齢化時代の中で、こどもの発達過程を学び、人生 100 年の土台作りとしての幼児期のこどもとの関わりを学ぶことはとても重要なことです。特にテストなどでは測れないコミュニケーション能力、くじけずに最後までやり遂げる能力である非認知能力が世界的に注目されています。その非認知能力を育む重要な時期が幼児期であり、世界各国でその取り組みが始まっています。</p> <p>この「保育の心理学」では幼児期におけるこどもの発達を理解するとともに、保育者としての関わり方を学び、保育実践につなげてください。</p>			
授業修了時の達成目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1 幼児期におけるこどもの発達の過程を理解する。 2 こどもの発達は環境との相互作用であるということを理解する。 3 非認知能力を育むには何が必要なのか理解する。 4 保育者としてこどもとの適切な関わり方を理解する。 			
教科書・教材	評価基準	評価率	その他
新・基本保育シリーズ⑧「保育の心理学」 編集 杉村伸一郎他（中央法規出版） 「保育所保育指針」 厚生労働省	試験	100.0%	
	レポート	100.0%	

※平成 31 年度以降入学生対象科目

科目名	乳児保育 I	担当教員	宮川 名子
科目コード	310021	授業形態	レポート・科目試験
単位数	2 単位	必修・選択	必修
授業概要 (テキストによる通信教育)			
<p>乳児期は、人生の出発点であり、人間が一生のうちで最も成長する時期である。そのため、個々の発達に合わせた受容的で応答的な関わりが大切である。乳児保育の現状や課題を理解し、3歳未満児の発達を踏まえた保育内容と保育者の役割について学んでいく。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 乳児保育の意義・目的と歴史の変遷 2. 乳児保および子育て家庭に対する支援をめぐる社会的状況と課題 3. 保育所における乳児保育 4. 保育所以外の児童福祉施設における乳児保育 5. 家庭的保育・小規模保育等における乳児保育 6. 3歳未満児とその家庭を取り巻く環境と子育て支援の場 7. 3歳未満児の生活と環境 8. 3歳未満児の遊びと環境 9. 3歳以上児の保育に移行する時期の保育 10. 3歳未満児の発育・発達をふまえた保育者による援助やかかわり 11. 3歳未満児の発育・発達をふまえた保育における配慮 12. 乳児保育の計画・記録・評価とその意義 13. 職員間の連携・協働 14. 保護者との連携・協働 15. 自治体や地域の関係機関等との連携・協働 			
授業修了時の達成目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・乳児保育を取り巻く社会的状況と課題を把握する。 ・3歳未満児の発育・発達をふまえた援助やかかわりが十分できるようにする。 ・保護者との連携・協働のあり方を理解する。 			
教科書・教材	評価基準	評価率	その他
新・基本保育シリーズ⑮ 乳児保育 I・II (中央法規出版)	(レポート・科目試験)		
	試験	50%	
	レポート	50%	

※平成 31 年度以降入学生対象科目

科目名	こどもの理解と援助	担当教員	島袋 春美
科目コード	310014	授業形態	スクーリング
単位数	1 単位	必修・選択	必修
コマ数	10 コマ	時間数	15 時間

授業概要 (スクーリングによる通信教育)

乳幼児の発達・発育について知る	<ul style="list-style-type: none"> ・胎児の発育について知る ・乳幼児の発育・発達について知る ・発育・発達の評価について ・保護者からの質問について対応する 	<ul style="list-style-type: none"> ・DVD ・資料 ・計測実習 (身長・体重・胸囲・頭囲) ・グループワーク発表 ・ミニテスト
こどもの理解を深める援助	<ul style="list-style-type: none"> ・タッチケアをとおして児の心身の様子を把握し援助 	<ul style="list-style-type: none"> ・DVD ・オイルを使つてのマッサージの実際
乳幼児の健康状況を知り保育のおける養護について考える	<ul style="list-style-type: none"> ・生理機能の発達について知る。 ・こどもの体調がするれない時に、客観的に判断する為の情報について知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料 ・実習 (体温・呼吸・脈拍・全身状態) ・GW
養護の実際について学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> *心地よい世話について考える ・抱っこ ・着せ替え ・スキンケア 	<ul style="list-style-type: none"> 実習 人形・衣類
～まとめ～ 子どもの理解に基づく保育の援助や態度の基本について理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの援助、態度の企保についての考えをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート (1 枚)

授業修了時の達成目標

- ① こどもの発育・発達について把握し、保育における子どもの理解・援助のあり方を学ぶ
- ② こどもの健全な成長を目標とし、良き相談者として対応できる様学ぶ。

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
新・基本保育シリーズ⑩ 子どもの理解と援助 (中央法規出版)	受講態度	30%	
	課題	20%	
	単位認定試験	50%	

※平成 30 年度入学生対象科目

科目名	こどもの保健 I	担当教員	島袋 春美
科目コード	310014	授業形態	レポート・科目試験
単位数	4 単位	必修・選択	必修
授業概要 (テキストによる通信教育)			
<p>1. こどもの健康と保健の意義</p> <p>(1) 生命の保持と情緒の安定にかかる保健活動の意義と目的について</p> <p>(2) こどもの健康を、諸統計から読みとり、課題について考え、支援について</p> <p>(3) 地域における保健活動と児童虐待防止 (家族・地域との連携)</p> <p>2. 子どもの発育・発達と保健</p> <p>(1) 生物としてのヒトの成り立ち (2) 身体発育と保健 (3) 生理機能の発達と保健</p> <p>(2) 運動機能の発達と保健 (5) 精神機能の発達と保健</p> <p>3. 子どもの疾病と保育</p> <p>(1) 子どもの健康状態の把握と主な疾病の特徴</p> <p>(2) 子どもの疾病の予防と適切な対応</p> <p>4. 子どもの精神保健</p> <p>(1) 子どもの生活環境と精神保健 (2) 子どもの心の健康とその課題</p> <p>5. 環境及び衛生管理、並び安全管理</p> <p>(1) 保育環境整備と保健、衛生管理 (2) 保育現場での事後防止、安全対策、危機管理</p> <p>6. 健康及び、安全の実施体制</p> <p>(1) 職員間の連携 (2) 母子保健対策と保育 (3) 家族・専門機関・地域との連携</p>			
授業修了時の達成目標			
<p>1. 小児の保健、健康について、発達段階をおさえて理解する。</p> <p>2. 小児保健の基本をおさえて、発育・身体機能・疾病との関連・予防・養護について理解する。</p> <p>3. 保育環境、衛生管理、安全対策について理解する。</p> <p>4. 母子保健について理解し、家庭、専門機関、地域との連携について考察する。</p>			
教科書・教材	評価基準	評価率	その他
基本保育シリーズ こどもの保健 I (中央法規)	試験	100.0%	
	レポート	100.0%	

科目名	こどもと環境	担当教員	真喜志 昇
科目コード	310015	授業形態	スクーリング
単位数	1 単位	必修・選択	必修
コマ数	10 コマ		15 時間

授業概要 (スクーリングによる通信教育)

こどもの発達と環境とのかかわりについての知識を習得する。人的環境である保育者としての役割はどうあるべきか環境教育の指導・実践方法について具体的な活動や事例を通して理解を深める。

授業修了時の達成目標

- ・身近な環境とのかかわりに関する領域「環境」のねらいや内容について理解する。
- ・こどもの発達にとって望ましい環境を考えることができる。
- ・保育実践における環境構成と援助のあり方について習得できるようにする。

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
	受講態度	30%	
	課題	20%	
	単位認定試験	50%	

科目名	こどもと人間関係	担当教員	宮城 元子
科目コード	310016	授業形態	スクーリング
単位数	1 単位	必修・選択	必修
コマ数	10 コマ		15 時間

授業概要 (スクーリングによる通信教育)

幼児期の人間関係の形成は、保育所保育指針における5領域の一つに「人間関係」として位置づけされているほど、大切なものである。

スクーリングにおいては、以下のことを、主に演習などを通して考える。

1. 幼児教育の基本
2. 乳幼児期の発達と人間関係
3. 子どもと保育者の関わり
4. 遊び、生活を通して育つ人との関わり
5. 個と集団の育ち
6. 人との関わりを見る視点
7. 現代の保育の課題と人間関係

授業修了時の達成目標

- ・子どもの発達について理解し、保育者として適切な関わりについて考えることができる。
- ・子どもだけでなく、保護者、同僚等との人間関係について、自分なりの関わりと考えることができる。

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
	受講態度	30%	
	課題	20%	
	単位認定試験	50%	

科目名	こどもと表現 I	担当教員	中村 美和
科目コード	310017	授業形態	スクーリング
単位数	1 単位	必修・選択	必修
コマ数	10 コマ		15 時間

授業概要 (スクーリングによる通信教育)

1. 幼児教育の基本
2. 乳幼児期の発達と表現
3. 生活の中にあるものをあじあい、感性を養う
4. 自然やものの美しさに触れる～感性を身につける
5. コミュニケーションとしての表現
6. 保護者が支える表現
7. 子どもの豊かな感性と表現
8. 子どもの豊かな感性と造形表現
9. 領域「表現」の現代的課題と新たな試み

音楽表現を通して (実技演習)

手遊び・歌遊び・オペレッタ (表現の楽しさを知ろう)
 オペレッタで舞台作成、衣装作成を通して表現活動をする

教科書・教材 ※講師使用

領域 表現
 無籐隆 監修 浜口順子 編者代表 (萌文書林)
 手遊び指遊び歌遊びブック①② (ひかりのくに株式会社)

授業終了時の達成目標

表現を支える保育者として子どもが始めたことを大切に受け止め、共に感じ共に楽しむ人として関わる。
 様々な表現に興味や関心があり、表現の楽しさを知っている。
 子どもの姿を丹念に捉え、豊かな感性を育む環境をつくり、心が動き表現する喜びをあじわえる活動を作り上げ、多様な表現が自由に行き来する生活を創ることが出来る保育者を育む。

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
	受講態度	30%	
	課題	20%	
	単位認定試験	50%	

科目名	こどもと造形 I	担当教員	宮城 潤
科目コード	310018	授業形態	スクーリング
単位数	1 単位	必修・選択	必修
コマ数	10 コマ		15 時間

授業概要 (スクーリングによる通信教育)

〔授業全体の内奥の概要〕
 研究製作により自己を高めながら、造形表現を通して「感性と表現」の観点から子どもたちへの良き理解者、保育者になるよう、演習を通して学習する。

色彩について

- ・有彩色・無彩色、色の三要素、三原色等
- ・三原色の色水から1 2色相環を作る

オートマティスム

- ・ドリッピング
- ・吹流し
- ・にじみ絵
- ・フロッタージュ (凸凹採取)
- ・バッチク (クレヨンフロッタージュも活用)
- ・スタンプング「動物のいる風景」
- ・フィンガーペインティング
- ・色水遊び

鑑賞

- ・お互いの作品を見ていいところを発表する

イメージを形にする

- ・擬音語・擬態語を色と形で表現

造形表現プロセス

- ・紙粘土型を通して

授業終了時の達成目標

〔授業の目的・ねらい〕

表現手段と教材、素材についての研究と体験を通して造形的な基礎理論と指導法を深める。

〔授業終了時達成課題 (達成目標)〕

造形表現の基礎理論を身につけ、表現手法と材料、素材を意欲的に研究できるようになる。

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
	受講態度	30%	
	課題	20%	
	単位認定試験	50%	

科目名	児童文化演習	担当教員	大田 利津子
科目コード	310019	授業形態	スクーリング
単位数	1 単位	必修・選択	必修
コマ数	20 コマ		30 時間

授業概要 (スクーリングによる通信教育)

1. 児童文化とは何か、児童文化財の種類
2. 子どもの為の、沖縄の伝承文化 I わらべ歌、手遊び
3. 子どもの為の、沖縄の伝承文化 II 沖縄の民話 (しまくとぅば・歴史・特質)
4. 子どもの為の、沖縄の民話文化 III 沖縄の民話 (種類・再話)
5. 子どもの為の、沖縄の伝承文化 IV 沖縄の民話を語る (素話)
6. 絵本論 絵本の種類と選び方
7. 子どもの成長と絵本 I 読み解きと読み聞かせ実践 (0 歳～2 歳赤ちゃん絵本)
8. 子どもの成長と絵本 II 読み解きと読み聞かせ実践 (3 歳～6 歳)
9. お話の小道具 I 軍手人形制作
10. お話の小道具 II 軍手人形制作・演じ方
11. 紙芝居 I 特質を知る、読み解き演習
12. 紙芝居 II 紙芝居の演じ方、実技
13. 伝承玩具製作 I 日本の伝承玩具パタパタ作り
14. 伝承玩具製作 II 日本の伝承玩具パタパタ作り・演じ方
15. 試験

授業終了時の達成目標

1. 児童文化とは何か理解し、子どもの成長における児童文化財の役割が理解できる。
2. 保育現場で、児童文化財を種々選択し、活用・実践する能力を身につける。
3. 児童文化財の各理論と。活用術の習得

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
	受講態度	30%	
	課題	20%	
	単位認定試験	50%	

科目名	こどもと音楽表現Ⅰ（ピアノ）				担当教員	中村 美和・大城 了子		
科目コード	310020				授業形態	スクーリング		
単位数	1 単位	必修・選択	必修	コマ数	20 コマ	時間	30 時間	
授業概要（スクーリングによる通信教育）								
(前半)1 日目				(後半)3 日目				
9:00~9:30	オリエンテーション			9:00~9:30	オリエンテーション			
9:30~11:30	試験			9:30~11:30	試験			
11:30~12:00	採点・再試験者告知			11:30~12:00	採点・再試験者告知			
12:00~13:00	昼食			12:00~13:00	昼食			
	個別レッスンを受ける学生	個別レッスンを受けない学生			個別レッスンを受ける学生	個別レッスンを受けない学生		
13:00~14:00	A グループ	課題①		13:00~14:00	A グループ	課題②		
14:00~15:00	B グループ			14:00~15:00	B グループ			
15:00~16:00	C グループ			15:00~16:00	C グループ			
16:00~17:30	再試			16:00~17:30	再試			
17:30~18:00	オペレッタグループ分け・準備 試験の総評			17:30~18:00	オペレッタグループ分け・準備 試験の総評			
(前半)2 日目				(後半)4 日目				
	再試受ける学生	再試受けない学生、 受けた学生			再試受ける学生	再試受けない学生、 受けた学生		
9:00~9:30	試験曲の練習	課題①の解答		9:00~9:30	試験曲の練習	課題②の解答		
9:30~10:30	再試	課題①を 12:00 までに提出		9:30~10:30	再試	課題②を 12:00 までに提出		
10:30~12:00	オペレッタ 衣装作成			10:30~12:00	オペレッタ 衣装作成			
12:00~13:00	昼食			12:00~13:00	昼食			
13:00~14:30	オペレッタ 練習			13:00~14:30	オペレッタ 練習			
14:30~14:45	休憩			14:30~14:45	休憩			
14:45~15:15	オペレッタ 舞台練習リハーサル			14:45~15:15	オペレッタ 舞台練習リハーサル			
15:15~15:45	オペレッタ 舞台リハーサルビデオ鑑賞			15:15~15:45	オペレッタ 舞台リハーサルビデオ鑑賞			
15:45~16:00	休憩			15:45~16:00	休憩			
16:00~16:45	オペレッタ 練習			16:00~16:45	オペレッタ 練習			
16:45~17:15	オペレッタ 舞台発表			16:45~17:15	オペレッタ 舞台発表			
17:15~17:45	オペレッタ 舞台発表ビデオ鑑賞			17:15~17:45	オペレッタ 舞台発表ビデオ鑑賞			
17:45~18:00	感想文、総評			17:45~18:00	感想文提出、総評			
授業修了時の達成目標								
前半：試験曲（弾き歌い5曲すべて）※指定教科書・教材より ① むすんでひらいて ② ハッピーバースデー ③ かたつむり ④ ハ長調音階 ⑤ おかたづけ				後半：試験曲（弾き歌い3曲すべて）※指定教科書・教材より ① やぎさんゆうびん ② 一年生になったら ③ 朝のうた				
教科書・教材					評価基準	評価率	評価基準	評価率
・うたえる！ひける！ピアノ曲集①（DOREMI）					受講態度	30%	単位認定	50%
・沖縄福祉保育専門学校 2020 年度入学 保育通信科 こどもと音楽表現					課題	20%	試験	